

第10回奈良ESD連続セミナー 概要報告

- ◇開催日時 平成29年1月25日(水) 19時～21時
- ◇会場 奈良教育大学次世代教員養成センター2号館
- ◇参加者 池見(大宮小)、池見・大西(飛鳥小)、蔵前(真美ヶ丘第一小)、中澤哲(平群北小)、三木・山方(都跡小)、河野(富雄第三)、島(郡山西)、西口(平城西)、黒木・後藤田・北村・中澤(奈良教育大学) 14名

◇内容

ESD学習指導案の検討

(1)「電気の利用」(6年理科) 後藤田洋介氏

- ・すべてを実験で見せていくのは難しい。
- ・エネルギー問題に目を向けさせるという方向もある。

(2)「自然とヒトがともに生きる社会へ」 (6年理科・総合) 蔵前拓也氏

- ・水に焦点化して、校区の自然環境も「水」でランク分けする。核心地域・緩衝地域・移行地域
- ・エコパークと自然遺産の違いは、「利活用」にある。利活用することで自然環境を守ること。
- ・エコパークを教材化することで、単元の目標に迫ることができるか。
- ・住宅地にある学校である場合、公園が核心地域になるのか。
- ・川をさかのぼっていき、そこを核心地域と位置付けるという方法がある。
- ・目標は三つに分けて書く。



(3)「わたしたちの秋篠川」(4年総合) 西口美佐子氏

- ・川の清掃は総合でよくやられているが、それをESDにするには、時間軸を入れる必要がある。
- ・ゴミ拾いの先にもっとおもしろい取組はできないのか。
- ・里親の方に話を聞く方が身近ではないのか。
- ・ゴミ拾いは2回してはどうか。2回目に行ったときに「また汚れている」という驚きと怒りが行動化につながるのではないのか。
- ・西の堀河についてはもう少し調べた方がいい。
- ・ESDの観点は、「ESDの視点」について、学ぶことができるものを文章表現する。

(4)「浜口梧陵の生き方から学ぶ」(4年社会科) 黒木純氏

- ・村民を無事に避難させ、大津波から守った。その後、高さ5メートルの防波堤をつくる。
- ・思いや願いにフォーカスする単元であろう。
- ・どのようにしたら梧陵に焦点化できるか。銅像があるので、その写真を使う。
- ・津波でも避難しない理由：正常化の偏見、認知不協和

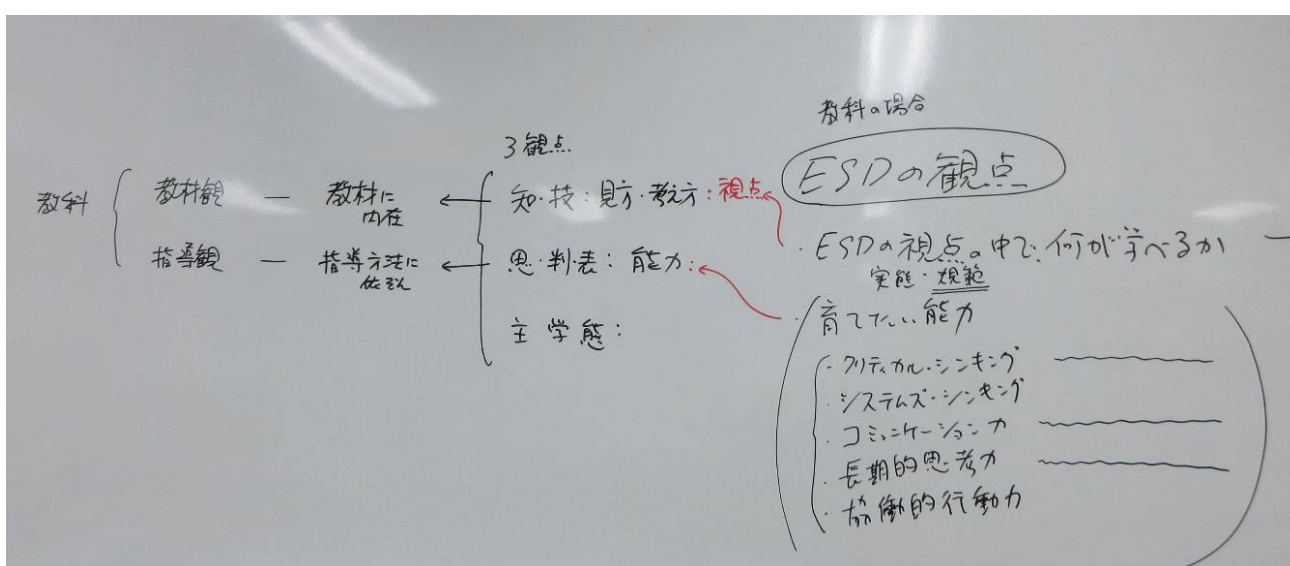
ここを打破するのは率先避難者の存在。だから、率先避難者になることが子どもができること
釜石の奇跡でのサッカーをしていた少年たちの行動を参考に

- ・ 郷土の開発單元なので、そのような方向に学習を進めるべき。

(5) 「柿の葉すしのふるさと五條市」(4年社会科) 島俊彦氏

- ・ 深めるの部分で柿の葉すしが郷土色になった理由が、わかるか。
- ・ 知識の構造図の中心概念をもっと詳しく、明確に書くこと。
- ・ 深めるが浅い。柿の葉をつくっているのは、子どもにとって一番不思議に思うところなので、そこをクローズアップすべき。
- ・ 自然環境と伝統文化、
- ・ 柿の葉寿司を追究する学習になっていないか。五條市の特色を追究する学習にすべき。
- ・ 地元で柿の葉寿司をつくっている人にインタビューする。

次回は2月16日(木)19時～



ESDであることを強調するために、「単元について」に「ESDの観点」欄を設ける
そこに記述するのは、単元で学ぶことができる「ESDの視点」を文章で表現する。